

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)(案)

協議会名: 広陵町地域公共交通活性化協議会

平成31年1月17日

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>【事業内容】</p> <p>①観光向けの公共交通利用促進 観光客が路線バス、広陵元気号を利用して町内を巡りやすいようにするため、バスの時刻表と一体となった町内観光パンフレット・ホームページの作成など、観光客への観光資源・公共交通情報の提供を行う。</p> <p>②広陵町役場広場整備 広陵町役場前を整備し、役場とバスとの接続環境の向上を図る。広陵元気号の運行にあたっては、役場周辺のさわやかホール、中央公民館等の幹線路線と支線路線との接続個所において、可能なかぎり乗継しやすいように、運行ダイヤの調整を行う。</p> <p>③モビリティ・マネジメントの実施 小学生や健康づくり教室等に参加している地域住民を対象としてモビリティ・マネジメントを実施する。</p> <p>④広報による地域住民等への周知 広報を活用して新たな運行方法の周知を図るとともに、利用状況等を継続的に掲載し、公共交通の普及啓発に努める。</p> <p>⑤ホームページの作成と連携 広陵元気号のインターネットホームページを現況よりも充実させ、利用者の目的施設となる町内の施設のホームページや交通事業者のホームページにリンクできるように協議を進め、利用者が交通情報を利用しやすくする。</p> <p>⑥高齢者運転免許自主返納の促進 高齢者運転免許自主返納者に付与するコミュニティバスの乗車券を作成し、運転免許自主返納者を増やす取り組みを進める。</p> <p>⑦商業施設・事業者との連携 公共交通の持続可能な運営のためには、利用者を安定的に確保するとともに、企業等との連携による利用促進、運賃以外の収入確保についても工夫していくことが必要である。行政、交通事業者、企業等の関係者が連携して、企画切符の作成、車内への広告掲載、乗降場所周辺の企業・店舗等からの協賛金制度等の実施に努める。</p> <p>⑧イベントの実施 公共交通を使った集客力のあるイベントを実施し、利用者の増加を図るとともに、イベントへの参加をきっかけに公共交通を利用する楽しさを知ってもらい、利用促進につなげる。例えば、バスを使って町内の観光地をめぐるスタンプラリーなど、公共交通だけでなく、町内の魅力を知ってもらうイベントなどが考えられる。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p>計画どおり適切に実施できていない点があった。</p>	<p>平成28年5月に策定した広陵町地域公共交通網形成計画に定める事業を確実に実施していくとともに、継続して利用促進していくことで持続可能な公共交通を目指していく。</p>

<p>【結果概要】</p> <p>①観光向けの公共交通利用促進 平成31年10月に再編を実施予定であるため、再編時に観光向けの情報と一体化した時刻表を作成予定</p> <p>②広陵町役場前広場整備 路線バス運行事業者と調整をしたが、既存路線の変更や道路拡幅も必要となったことから、実施することができなくなった。</p> <p>③モビリティ・マネジメントの実施 町内の小学校5校のうち全校でモビリティ・マネジメント(バスの乗り方教室)を実施した。また、政策間連携で健康づくり教室に出向き、参加者に対してモビリティ・マネジメント(コミュニティバスのPR、お試し乗車券の配布)を継続して実施している。</p> <p>④広報による地域住民等への周知 広報、HP、SNSなど、積極的に情報を発信した結果、平成30年10月に実施した公共交通に関する住民アンケートにおいて広陵元気号の認知度が96.3%となった。また、利用についても年々増加している。</p> <p>⑤ホームページの作成と連携 広陵町移住定住促進サイトと連携し、公共交通のページを作成した。広陵元気号の紹介や各停留所の位置データを確認できるようにすることで、わかりやすい情報の提供に努めている。</p> <p>⑥高齢者運転免許自主返納の促進 平成30年9月から高齢者運転免許自主返納事業を開始した。運転免許自主返納者に対しては、広陵元気号乗車回数券11枚綴りを5冊(5,000円分)又はICOCAカード5,000円分(デポジット500円を含む。)のいずれかを交付している。</p> <p>⑦商業施設・事業者との連携 町内事業者と連携し、お買い物ポイントカード制度を実施した。 お買い物ポイントカード制度は、広陵元気号に1乗車=1ポイント、20ポイント貯まると協賛事業者において粗品と交換できる制度であり、この制度の利用者は、年々増加している。今後とも事業者との連携強化に努める。</p> <p>⑧イベントの実施 公共交通シンポジウムを実施した。また、広陵町内のイベントと政策間連携し、広陵元気号に関するクイズや車輛展示、乗車体験を実施し、コミュニティバスとふれ合う機会を創出した。</p>	B	
---	---	--

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

協議会名:	広陵町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>当町は奈良盆地の中西部に位置し、面積は16.30km²、人口は約35,000人の町である。</p> <p>近年では生産年齢人口の減少・高齢化が進展し、公共交通事業者の不採算路線からの撤退等により、交通空白地域及び交通弱者の交通手段の維持・確保が重要となっている。</p> <p>このような状況を踏まえつつ、コンパクトシティといったまちづくりの観点や観光政策といったことについても、公共交通が担う役割が大きいことから、鉄道・バス・タクシーの各公共交通が連携して、当町にとって真に必要な公共交通を構築するため、平成28年5月に「広陵町地域公共交通網形成計画」を策定した。</p> <p>今後、当町では、当該計画に示した事業を円滑かつ着実に進めるとともに、また、地域公共交通確保維持事業による支援を活用しながらコミュニティバスを運行することで、持続可能な公共交通体系を構築していく。</p>